

Chapter 17 Social influence

不可解なこと

- ・ナチス政権下の大量虐殺（アウシュビッツ収容所） 1933～45年
- ・ジム・ジョーンズによる人民寺院の集団自殺 1978年
- ・アメリカ同時自爆テロ 2001、9、11

社会心理学者の見解：社会状況は人の行動を形成することができる、個性、人格特性を越える強い影響がある

善悪二元論的分類… × → Fundamental attribution error

The presence of others

•Social facilitation and social inhibition

Co-action effect (Norman triplett,1898) 競走、働きアリ、食物摂取増進、掛け算成績向上

Audience effect (Dashiell,1930)

→ **Social facilitation or Social inhibition**

meta-analysis

simply task → social facilitation

complex task → social inhibition

why?

1. 動機づけの動因理論による説明 (Robert Zajonc.1965)

見物者や共行動者の存在は、個人の一般的覚醒水準ないしは動因水準を高めることによって、優勢反応の生起率を増大させる。

2. 注意要因による説明

他者の存在は遂行者の注意を散逸させる。

Which explanation is correct?

Stroop effect (Stroop,J.R,1935) ↔ **stroop interference**

↓

↓

× 1、 **The dominant-response view** → social inhibition

○ 2、 **The attention view** → social facilitation

(* Stroop task involves only two key stimuli)

- i. 他者がただいだけでは促進されない。
見物メンバーが読み上げるか目隠しされると、社会的促進は大きく損なわれる。
- ii. 共行動者との競走と社会的比較は重要。
共行動者が参加者より悪くなるよう演じる-競走していない-社会的促進はまた大きく損なわれる。

ある作業がその人にとって単純か複雑かによって他者の存在はあなたを助けもするし傷つけもする

•Deindividuation

“the crowd is always intellectually inferior to the isolated individual.”

(LeBon, *The Crowd*, 1985.)

the core idea within **deindividuation**

ある集団において人々の個人の持つアイデンティティの特徴を最小化し、公的責任の感覚を薄れさせ、攻撃的もしくは異常な行動を生む。

two key characteristics : **group size** and **anonymity**

電気ショックを用いた没個性化の実験 (Zimbardo, 1969)

集団の半分は匿名性を感じるような衣装にし、名前もいわない。もう半分は私服でIDタグをつける。

→ 没個性化した女性→個別化された女性と比べて2倍のショックを与えた。

ハロウィーンでの実験

アメを手に入れる機会を与えられたとき、名前を答えた子供たちよりも、集団か匿名性を保つて子供たちのほうが多くアメを取る。

↑ 批判: KKKの衣装やハロウィーンの仮装は攻撃的で否定的なキャラを含んでいる。単純な匿名性ではないし、攻撃性を助長する社会規範を活発にする。

Social norms : 受容可能な行動と信念のための暗黙もしくは明示的規範

→ 匿名性より社会規範のほうが攻撃性を生むかどうかテスト

KKK、ナース、私服の3パターン

Shock 大 (KKK > 私服 > ナース) 小

→ 匿名性は必ずしも攻撃性を増加させるのではない

集団規模や匿名性による公的責任の減少する状況は、人々の個人アイデンティティの特徴が単純に薄らぐのではなく、同時に集団アイデンティティの特徴が高まる。(ナース、人民寺院)

初期研究: 集団と匿名性は、異常な行動に対して普段行っている抑制を破壊する。

最近の研究: 集団状況の特徴は、特別な社会規範への大きな同調を促進する。

•Bystander effects

Kitty Genovese の事件(1964)

少なくとも38人の隣人が彼女の悲鳴を聞いていたが、誰も助けず、警察さえ呼ばなかった。

Bystander effects

人々は他者の存在するとき助けにくいようである

2つの要因

1. **Pluralistic ignorance**

2. **Diffusing the responsibility**

(Latane &

Darley, 1970)

-Defining the situation

Many emergencies begin ambiguously.

→ to postpone action , discreetly glance to see , blank expressions , etc.

↑ **Pluralistic ignorance**

集団内ではみんながその状況を緊急事態ではないとして解釈することで他のみんなを誤解させる。

煙実験 (Latane & Darley, 1968)

↓ * 単純に臆病なだけだったかもしれない
チェックのための実験 (oh my god. My foot...)

10歳の二人の少年による、2歳の子へのリンチ殺人 (Levine, 1999)

-Diffusion of responsibility

多数の無知だけではGenovese murderを説明できない→隣人は他者がどのような状態なのか見れない

Diffusion of responsibility

各個人が多く他の他者の存在を知っているとき、責任の負担はたった一人にのしかからない。

「誰か他の人が何かするかして介入するだろう…」

ブースでの大学生相談実験

1 緊急かどうかは明確

2 他人がどう反応している分からない

3 実験者が緊急事態を知ることができないのを知っている。 (Latane & Darley , 1968)

多数の無知と責任の分散が縮小されるなら人々は他者を助けるか？

地下鉄での実験

-The role of helping models

人々は他人が非緊急事態だと決めるためのモデルとして用いている。また、いつ助けるかを示すモデルとしても用いる。

- ・カーアクシデントの援助実験
- ・チャリティー
- ・名犬ラッシーとセサミストリート

-The role of information

社会心理学の学習 → 援助行動の増加

Compliance and obedience

•Conformity to a majority

Asch's experiment (1958)



Compliance

Informational social influence

他者の意見や判断を参考にして、より適切な判断や行動を行おうとすること。

Normative social influence

他者からの賞賛を得たい、罰を避けたいという動機に基づいて集団規範に合致した行動をとること。

多数の無知と大学生の飲酒

•Minority influence

アッシュの実験を再現

Minority influence

少数派は厳格、独断、尊大でなく首尾一貫しているのなら、多数派を動かせる。

大きな社会規範に沿ったものならば効果的 → フェミニスト問題
態度変容 ← **Implicit leniency contract**

•Obedience to authority

Adolf Eichmann (WWII)

American soldiers (in Vietnam in 1968)

Stanley Milgram の実験(1963,1974)

Obedience to authority

Surveillance

Buffers

Role models

Emerging situations

┌ Ideological justification

Ideology

-Ethical issue

- ・ 実験中での受容範囲を超えたストレス
- ・ 致命的ショックを与えることの学習による長期の心理的影響
- ・ 特定の心理学者と一般的な権威に対する信用の失墜

Debriefing

過程の理由を説明し、参加者と前向きな関係を再構築した。

-Obedience in everyday life

医師からナースへの規律違反指示の実験

Internalization

外側の社会規範や価値を、自分の中に取り入れて、自分自身がこれに合致した規範や価値を身につけるように変化していく過程。いったん内在化されると、賞罰や命令がなくても、自発的にその規範や価値に適合する行動を取るようになる。

•Self-justification

Rationalization

葛藤や罪悪感を伴う言動を正当化するために社会的に承認されそうな理由づけを行う試み

頼みごとの実験

→

Foot-in-the-door-technique

普通はNoという要求をYesといわせるために、小さな要求からはじめる方略。

–Cognitive dissonance theory

認知的一貫性に向かう動因がある。矛盾が不快感を生み、人々に矛盾を取り除き調和するようさせる。

くだらない作業(peg-turning)の実験

–Self-perception theory

内部手がかりが弱く、曖昧で、解釈できない範囲では、個人は個人の内部状態を推論する外部の手がかりを頼っているに違いない外の観察者のようである。

Over-justification effect

外的な報酬を与えることで内発的な動機づけが失われてしまうこと。

ういっち せおりー ういん？

–Self-justification in Jonestown

•Reference groups and identification

Identification

もし私たちが他の個人やグループを尊敬し賞賛するなら、彼らの規範に従い、信念、態度、行動を採用する。

Reference group

同一視するグループ: 意見と行動を評価し、統制するためそれらを参考にする。

Newcomb's classic Bennington Study

Conservative → Liberal

–From identification to internalization

Group interactions

•Institutional norms

Like social norms

Stanford Prison Experiment (Zimbardo,1972)

•Group decision making

複数の人が合議により共通の決定を下す事態

–Group polarization

Business decision の考察

Hypothetical dilemmas での実験

Risky shift effect → **Group polarization effect**

集団討議後になされる集団反応の平均が、討議前に個々人によってなされた反応の平均よりも、同一方向により極端になって現れる現象。

–Groupthink

キューバ侵攻の失敗

Group think (Janis,1982)

グループコンセンサスにたいして反対することを抑圧するようにはたらく

Janis's theory での原因

1. 凝集性
2. 外部からの孤立
3. システム化されていない手順
4. リーダーシップ
5. ストレス

集団思考の結果、症状

1. 幻覚の共有
2. 反対者への直接的圧力
3. Self-censorship
4. 集合的合理化
5. Self-appointed mindguards